

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第50回●

世界戦に参加して

久々に世界戦に参加した。最近の珠力の低下は如何ともしがたいので、目標はAT出場であったが、久々の大会を楽しみたいという気持ちの方が大きかった。

7月30日、朝10時過ぎに家を出る。旅行かばんはお土産のハリボーなど満載で結構重い。いつものフラックフルト空港でしばし待つ。

<イエテボリ空港>



12時15分発のフライトで離陸。予定通り14時にはイエテボリ空港に到着した。空港からヨンチョピング行きの長距離バスが出ているはずだが、乗り場がわからず迷う。一応それらしき乗り場を発見し、周りの人に聞いて一安心したが、いざ乗ろうとしてアクシデント発生!

<長距離バス>



どこでチケットを買うんだろうかと思っていたら、私以外は何かチケットらしきものを持っていないけどここで買えます

すか?」と聞いたら「Yes」と言ったので一安心したら、現金はNo.と言われた。瞬間パニックになった。運転手から「クレジットカードは持つてるか?」と聞かれたので、ようやく事態が少し飲み込めた。このバスはキヤッシュレスシステムで、事前にネットでチケットを購入しておかないとだめらしい。「一番前に座って待って」と言われて、小さくなって待っていると、携帯電話の番号を教える、と言われた。すると瞬時に何か届いた。クレジットカードから引き落とされて、携帯のショートメールにそのお知らせが来た。運転手が本部に電話をして本部の方で決済したようだ。後でヨンソンにこのことを言ったら彼も知らなかったようだ。おかげで周りの冷たい視線にさらされながら2時間近くバスに乗ることになった。ヨとは言え、四時半にはヨ

<ベッドの準備>



ンチョピングに到着。ヨンソンが迎えに来てくれた。会場に行つて準備を手伝うことにした。

中でも大変だったのがベッドを2階に上げる作業。なぜベッド?と思つたら、お金がない選手のために、会場で寝泊りできるようにするということらしい。宿泊代はタダ。食事代だけ払えばいいとのこと。結局、30人以上が泊まった。やはり世界戦を開催するにはこういう住み込み部屋が必要だと感じた次第である。

<会場となった教室>



さて、次が会場の準備。教室にある机と椅子を並び替えて対局場にしていく。さすがに学校だけあって教室が多い。1階と2階の一部を対局場、2階3階を宿泊場と食事部屋にしていたが、それでもまだ残っていたぐらいだ。そうこうしているうちに、ヨンソンに電話が入りユースホステルまで行くという。チェコのゾワドワさんをヨンチョピングまで連れて行くらしい。そこで私も便乗して、プチ観光に出かけることとした。

<ヨンチョピングで>



彼女はボーイフレンドと来たようだ。彼は連珠をすののか、と聞いたら、昨日から始めた、ということらしい。大会期間中暇じゃないのか？と思ったが、愛の力は待つことも構わなくさせるようだ。ヨンチョピングからの帰りはバスに乗ったので、バスの乗り方もマスターできて良かった。ユースホステルでチェックインしたが、シートをもらうのを忘れたので、タオルを敷いて寝た。翌朝、シートとタオルをもらいさつ

<ユースホステルの4人部屋>

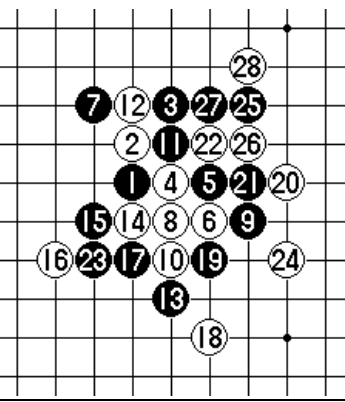


そくシャワーを浴びることに。日本選手団がやってくるのは夜なのでまだまだ時間はたっぷりある。シャワーが共同のことや、部屋が狭いことなどの情報を岡部君に連絡した。夜まで暇なので、連珠世界の原稿を書いたり、会場に行つて手伝ったりしていた。会場やホテル周辺の情報を入手し、日本チームに伝えることが一番の貢献と思い、せっせとメールを送っていた。日本チームは七時には着くだろうと思っていたらな

かなか到着しない。フロントが朝晩2時間ずつしか開かないのであせっていたら、もし来ない場合は鍵を預けてくれると聞き一安心。結局、八時半頃到着し、フロントも延長して開けてくれた。速攻で夕食とスープに行つたようだが、道を正確に教えなかったのずいぶん大回りをしたようだ。私の部屋は結局、QT出場優先で小野さんとの2人部屋になった。中山君含む若手と飯尾さんは4人部屋になったが、スーツケースを広げるスペースもなく苦労しているだろうかと心配した。ただし、部屋代は4人部屋の方が圧倒的に安い。8月1日、いよいよQTが開幕。私には始めてのQTである。1局目は台湾のリン君と。チーム戦で知り合っていたので楽しみにしていた一人だ。台湾チームは親日派で対局態度も良好感が持てる。台湾勢には

まだ名前が通用するようだ。

<リン—河村戦>



リン君は溪月八題を指定。もちろん白を取る。カワムラカップでアイボに打った手をやってみた。リン君はその棋譜を知っていたらしく、黒9で変化した。しかし、これは白10と引いて、ぱつと見白が良さそうだ。黒13と叩かれたので、白14と打って面白い勝負となった。黒15から三連続で三を引いてこんがらがってくるが、三々禁が残っているのが、黒21と止めざるを得ない。ここで白22が工夫した一手で、黒23で損なうように、黒の四追いを止めている。そこで白24と打つ手が

味がいい。白22の効果で焦点止めができない。時間がなくなってきたリン君は、黒25、27と打ってきたが、結局時間切れ負けとなった。

<リン—河村戦>

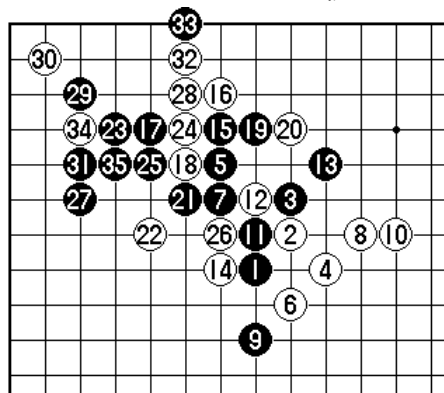


この結果からだけ見ると私がATに入って2位になっても不思議ではないのだが、こちら辺が実戦の難しい所。リン君はこの後踏ん張って5勝2敗で通過、AT快進撃までしている。結果的にはいいトレーニングになったのではないかとと思う。一方の私はその後アンツ、黄瀬君に簡単に負けた

のが痛く、半星差でATに進めなかった。まあ今の実力では妥当だと思うが、アンツがAT辞退したのを聞いて、「どうせならAT権利をもらって黄瀬君に譲った方がかつこよかった」と思ってしまった。アンツと同様BTには出場しなかったので、ATが始まったら、選手のサポートにまわることとした。飯尾さんもBT出場なので、私しか面倒見られないからだが、実際のところ見守るしかなく、WTであつさり勝っていく和美ちゃんの緊張緩和相手ぐらしいか役立たなかつた。リン君の活躍は素晴らしかつたが、事前の予想通り中国勢の強さが際立つた。しかし、欧州勢も勉強不足と言わざるを得ない状態だった。スシュコフはQTのリン—河村戦を見ていなかったように、岡部君に同じ手を打たれて早々と黒勝てなくなっていたし、ダイ戦で

は中村九段が2次予選で中山君に負けた手を打たれて敗れている。

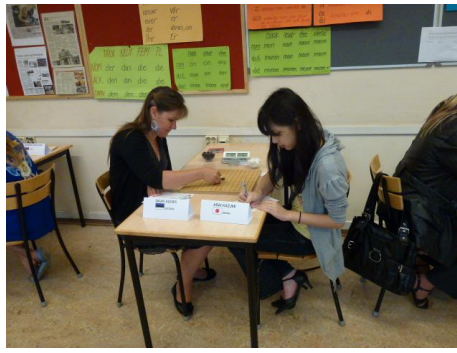
<ダイ—スシュコフ戦>



中国の方が欧州より研究が進んでいるという証拠だろう。ただ、この手はQTでリン君が既に打っており、それを見ていなかったのが敗着だ。さて、WTでの和美ちゃんの快進撃もすごかつた。30分で快勝した局も多く、ポイントなったメトエベリ戦やニコノバ戦を満局で凌いだので、ぐつと優勝に近づいた。最終局はこれまで

<速攻で優勝を決める>

全敗のサビクだったので勝つのは時間の問題だったが、これも開始35分での終了だったので見損ねた。7月に「Fイーバー」した「なでしこJAPAN」を彷彿させる活躍だった。



ATの方は大角名人が最初から3連敗と最悪の立ち上がり。特に最下位候補であったアンダーソンに負けたのが痛い。スシュコフ戦も、あこちゃん発見の必勝手を逃し簡単に負けている。岡部君もいつものことだが安定しない。一方の中国勢

<大角—ファン戦>

は白星を重ねていく。特にファン君はまだ20歳と若く、黄瀬君や中山君にもブリッツを挑んでくるあたりは勢いを感じさせる。ただ、彼はまだ対局中に大あくびをしていたので、それでは王者にはなれない。



懐かしい顔を発見

今回はスウェーデン開催ということで、懐かしい顔をよく見かけた。筆頭は64歳になったマルテルだが、ウプサラに住むガードストローム一家も夏休みを利用して駆けつけてくれた。ガ

<ガードストローム一家と>

ードストロームは何と89年の第1回大会にも出場している。昔は男前のナンパ師だったが、今は3人のいいお父さんになっていた。会うのは10年ぶりだろうか。カールソンも息子を連れてきており、さながら2世大会のようだった。



スクールデザインとは打ち上げの席でソ連時代の思い出話をしたし、結構20年以上も前のことをよく覚えてい

<打ち上げの席で>

ない思い出となったことだろう。ところで黄瀬君、連珠に関して言うことはないが、もっと英語をがんばろう。せめて5級程度にはな



ドイツに転勤しなければ出場できていかなかったであろうことを考えると、非常にラッキーであった。同時に、これからは日本だけではなく、世界の連珠をどうしていくかが、日本に与えられた使命だと思っ